

# 大念佛

No.104

発行/融通念佛宗  
総本山 大念佛寺  
大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026



このQRコードで  
大念佛寺にアクセスできます。

大念佛寺 で 検索  
<https://www.dainenbutsuji.com/>

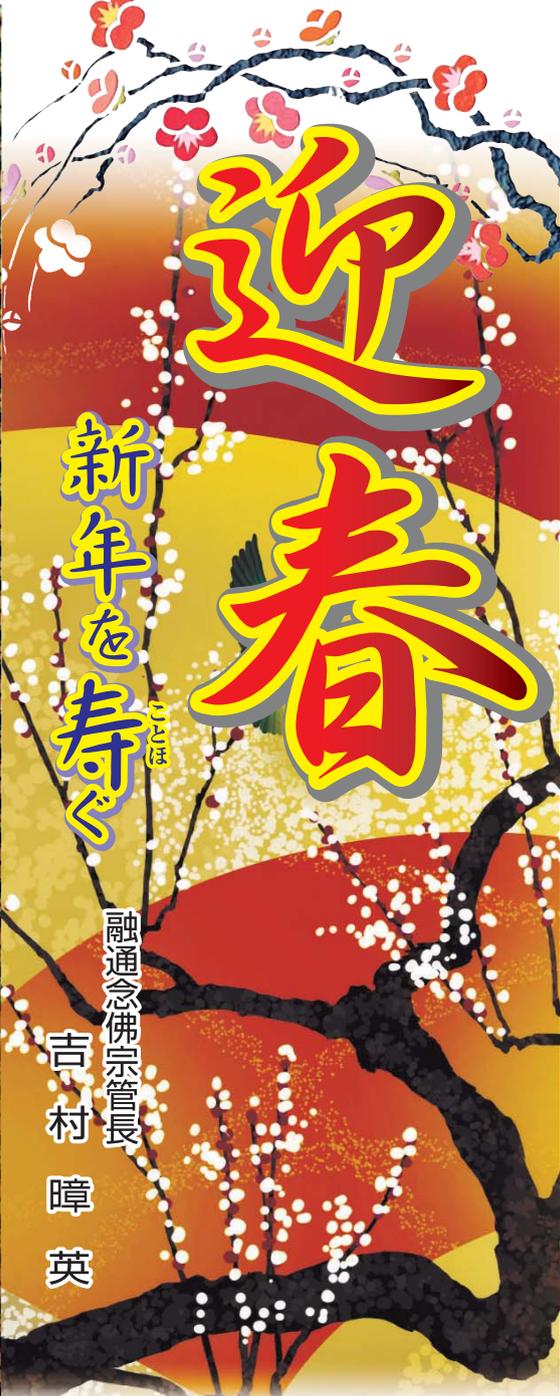
題字：融通念佛宗 管長 吉村暲英

令和八年丙午の新春を迎え、檀信徒皆さまがたのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。本年も仏さまのお加護のもと、仏法の恵みの中で日々すこやかに過ごしくださることを願っております。

### 薨の波

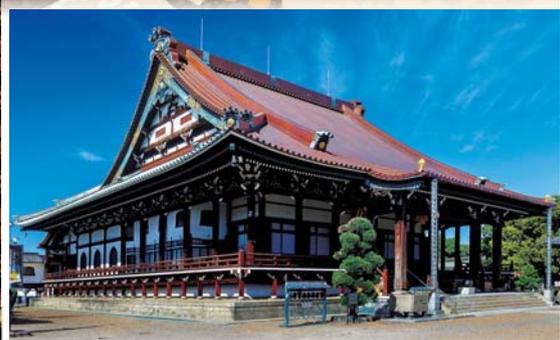
本山では約三カ年に亘る本堂の

令和八年丙午の新春を迎え、檀信徒皆さまがたのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。本年も仏さまのお加護のもと、仏法の恵みの中で日々すこやかに過ごしくださることを願っております。



融通念佛宗管長

吉村 暲英



「令和の本堂大改修」落成本堂

的は、本堂の銅板瓦の屋根葺き替えてした。そこに耐震設備や築地塀の改修工事が付加されました。檀信徒の皆さまがたには、特別宗費、瓦勧進、クラウドファンディング、特別寄附、写経など、様々な形でご寄進を賜わり篤く御礼申し上げます。

### 心悅清浄

迎春のよろこびと、改修工事が

無事、成満したよろこびを祝って、「心悅清浄」と揮毫させていただきました。この御文は無量寿経巻に出ています。「こころ」が喜びに満ち溢れ、清らかであるという事です。無量寿経には、お釈迦さまが阿弥陀仏のお徳を述べたたえられるとき、お顔は厳肅さで光り輝き、心は悦びと清らかに満ち溢れ、正覚（お悟り）を知らせる大音声は十方に響きわたったと説かれています。

### 「恩返し」と「恩送り」

世の中に「恩返し」という言葉はよく耳にするが、「恩送り」という言葉はあまり聞き慣れませんが、恩返しは、恩を受けた人に何かを返すことにより、その恩に報いることをいいます。しかし恩返しをしようと思っても、できずに終わってしまうこともあります。恩送りはその思いを、今、目の前にいる人たちに差し向けることにより、今まで受けた数々のご恩に報いるというものです。

昔の高僧は出家することにより、親への孝養の恩を振り捨てました。ただひらすら仏道に励み、迷いの闇に沈む世の多くの人たちに慈悲の道を示し、大いなる安らぎを与えました。これは、わが父母への孝養の恩を返す代りに、世の多くの人たちに仏道を通して得たご恩を返すことで、父母への恩も世の多くの人たちに送り送っていく姿です。まさに恩送りこそ真実のご恩返しというべきだと思います。

ある食品会社の社長さんは、商売を始めた頃、名も知らない人びとが商品を買ってくれたお蔭でなんとか商売を続けることができた。そのご恩を忘れずに、不特定多数の人たちに少しでも安く、良い品を届けることを生き甲斐にしておられます。外ならぬこの社長さんこそが、私に「恩送り」というすばらしい言葉を教えてくださった人なのです。

# 百万遍数珠繰りへの誘い

総本山大念仏寺では、一年の内一月、五月、九月の各十六日に百万遍の数珠繰りを行っています。「百万遍」とはまた大きな数字ですが、実はこの数字には融通念仏の妙義が説かれているのです。

私たち融通念仏宗の檀信徒はみな、毎日百遍のお念仏を称えることを日課とするように教えられます。しかし、たとえ毎日百遍のお念仏を称え続けたいとしても、一人の人間が一生涯に称え続けることのできるお念仏には限りがあります。元祖聖徳大師が大原にて阿弥陀仏から授かったという融通念仏の教えは、この限りあるお

念仏の数を無限に増やすことのできる教えであったのです。



## 万博寺

二〇二五年の四月十三日より十月十三日まで、大阪・関西万博が開催されています。皆様のご記憶にも新しいことと思います。

この万博に於いてまだ残暑の残る九月二十六日、融通念仏宗青年会も、法要の出仕という形で参加させていただく機会を得、無事成満いたしましたのでご報告させていただきます。

この始まりは七月終わりごろ。融通念仏宗青年会が加盟している全日本仏教青年会より、連絡がありました。「万博にて、九月に万博寺と



いう催しがある。各加盟団体の皆様それぞれにおいて、十分程度の法要を行っていただきたいが、いかがであるか」とのことでした。

一人の人が称えるお念仏が、すべての人々のお念仏に重なり、百人の人が百遍ずつお念仏を称えれば百かける百で一万となり、一人が一万遍のお念仏を称えたことと同じ功德になるのです。そしてこの教えのもと、大勢でお念仏を称えながら数珠を繰り、皆で大きな功德を積ませていただくのがこの百万遍数珠繰り法要なのです。

融通念仏宗青年会でも参加するかどうか、役員の間で話し合いました。何せ、当日まで二か月ほどしかなく、しかもお盆期間をささみます。開催までの期間が少なく準備の負担も大きいことであろう。賛否両論どころもあり貴重な意見が飛び交いましたが、やはりこれは一生に一度のことであろうと、万博への参加を決定いたしました。

融通念仏宗青年会の会員より出仕希望の方をつのり、十四名の参加が決まりました。それから約二か月間は、どのような法要にするのか、本山はじめ多くの方々に教えをいただき、何度も相談し、何度も習礼を行いました。そうして迎えた万博での法要の当日。前もって集合し、末寺よりご本尊をお迎えして仏具をお運びします。また集合場所ではミヤクミヤクの像やパビリオンの外見を青年会の仲間とともに眺めることが出来ました。普段通ることのないスタッフの専用通路などを通り、海外の方などと交流するという貴重な機会も得ることが出来ました。



法要が行われたのは、アメリカ館やフランス館の正面にあたるステージで、この日は二十万人以上の来場者であったこともあり、多くの方々が周囲にいらっしやいました。舞台袖には他宗の僧侶方や全日本仏教青年会の方が多数おられ、交流の素晴らしい機会となりました。

# 融通念仏ゆかりの地 叡福寺

聖徳太子は推古天皇二十年(六二二)、聖徳太子の母の眠る御廟に、太子と妃の大郎女が合葬された折、推古天皇より方六町の地を賜り、靈廟守護のために僧坊十烟(墓守の家一〇軒)を置いたのが始まりと寺伝に伝わっています。

聖徳太子は農業奨励のために、大和・河内・山城の地に灌漑用の池や水路を作り、国ごとに朝廷直轄の穀物貯蔵庫のある農園を置きました。また社会事業として、四天王寺に悲田院(貧窮孤独者の救護院)、施薬院(医療施設)、療病院(病院)、敬田院(仏法僧院)などを創設されました。こうした太子の愛民治国の姿勢は、生前から人々の間に「太子信仰」を生みました。奈良時代に入ると、本格的な太子信仰が始まりました。太子は、中国天台宗第二祖で般若思想の実践者でもある慧思禪師の生まれ変わりであるといわれ、最澄はこれを固く信じ、永く比叡山は太子信仰の伝統を守りました。平安中期には「聖徳太子伝暦」が書かれ、太子が超人的資質を備えていたという伝説や、太子を救世観音の生まれ変わりであるとする観音信仰が定着しました。

平安時代中期の天喜三年(一〇五四)、「太子御記文」が太子廟付近から出土し、続いて「太子廟窟偈」が発見されました。「太子御記文」には「此の記文出現するや、その時、国王、大臣寺塔を發起して佛法を願せん」と書かれており、「太子廟窟偈」には三骨一廟の思想が書かれていました。この偈文は後世の宗教家に大きな影響を与え、高僧やその高弟、代々の天皇など、聖徳太子を聖者として仰ぐ人々の参籠は営々と続き、現代に入っても信仰や研究の対象として多くの人々の心を惹きつけています。

融通念仏宗の元祖良忍上人もその影響を受けた一人でした。良忍上人は融通念仏勧進のため、鞍馬、大和と巡り、大治二年(一一二七)浪花津を経て四天王寺を詣で、河内の南の観心寺、金剛峯の磯長の廟(叡福寺聖徳太子ご廟)に参籠し平野に至ったと伝わっています。長承元年(一一三二)良忍上人大原来迎院にて入滅後、上人と結縁を結んだ者が良忍上人の遺言に従い、聖徳太子御廟の東側に、一基の石塔を建立し分骨したと伝わっています。叡福寺の向かいに建つ西方院所蔵の『建久四年(一一九三)古図』の境内絵図には、良忍上人の石塔が描かれています。また境内には念仏堂があり、元禄元年(一六八八)までは常光院と称していました。本尊は阿弥陀如来で、脇侍は観音・勢至菩薩の一光三尊仏で、善光寺四十八箇所中の第十三番札所とされており、かつては融通念仏道場であったと伝わっています。



起・靈宝目録と境内古絵図『大念佛寺誌』

「三祖略伝」

# 落慶

今蘇る令和の大堂  
融通の力がここに結実

落慶法要  
令和8年  
5月1日(金)  
慶讃万部法要  
大阪市無形民俗文化財  
二十五菩薩お練り供養  
令和8年5月2日(土)~6日(水)  
期間中毎日午後1時より

おちごさん  
随時  
募集  
しています。  
令和8年  
5月2日~6日  
詳しくは大念佛寺まで  
お問い合わせください。

大念佛寺  
〒547-0045 大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL 06-6791-0026 FAX 06-6793-3050

## 響き継ぐ信仰の道

### 響流十方

御回在伏鉦新調の記録

教学部 吉田 貴寛

十二月十七日、九十二日間にわたる大和御回在の全行程を終え、融通本尊「天得阿弥陀如来」が大念佛寺の山門をくぐり御帰院を迎えた。御本尊を護る一行が安堵と喜びを交えた表情で石畳を歩む。擦り減った

十二月十七日、九十二日間にわたる大和御回在の全行程を終え、融通本尊「天得阿弥陀如来」が大念佛寺の山門をくぐり御帰院を迎えた。御本尊を護る一行が安堵と喜びを交えた表情で石畳を歩む。擦り減った



事にとって伏鉦は欠かすことの出来ない梵音具(法要に用いる音の出る楽器の総称)である。供奉員と言われる御回在を執行するメンバーに加入すると、最初に教え込まれるのが伏鉦の扱い方である。音の大小や緩急の自在を極めるには相当な修練が必要であり、先輩からの厳しい指導(習礼とよぶ)によって、心

命を宿した伏鉦が御回在の旅路に加わった。

### 鑄造の背景

今回の伏鉦新調についてはすでに新聞一〇一号「御回在伏鉦鑄造式」で報じられているが、富山県高岡市の株式会社平和合金に江戸時代の名工 西村左近宗春作とされる伏鉦と同形、同重量、同音色のものを三口依頼した。高岡市は日本三大大仏の一つ「高岡大仏」を擁し鑄物産業と寺院文化の結びつきが深い。平和合金も仏具製造に信仰を込めて取り組んでおり、会長藤田益一氏は「今回のご縁をありがたく感じている」と語った。



音です。音階はC音(低音 神仙)ですが、国際標準ピッチのA音(ラ音 黄鐘) 440Hzに調律されたC音(低音)ではなく、432Hzに調律されています。432Hzは神秘、宇宙の周波数です。」

調べるに432Hzは癒しの周波数として知られ、モーツァルトやヴェルディが好んで用いたとされる。現代の音楽でも宇多田ヒカルや藤井風などの楽曲にも432Hz調律のものが数曲あるようだ。精密な調律器のない江戸時代、心に響く鉦の音色を追及した先人たちの思いを痛感したと金森氏は語っていた。

### 命名と刻印

完成した三口の伏鉦は、それぞれ「大和」「河内」「兩國」と命名され、裏面には祈願文「弘法興隆回在円満令法久住利益人天」と、製作者「富山高岡平和合金 陽峯 作」の刻印が鏝で美しく施された。

### 伏鉦への思い

鳥羽上皇はご自身所有の鏡を伏鉦に鑄直し、元祖良忍上人に授けられ、上人はこの鉦を手に諸国を巡り、念仏勧進の旅をされた。その姿を現代に投影したものが御回在である。伏鉦に込められた思いは計り知れない。十方に響き渡る鉦の音色に耳を澄ませ、御本尊「天得阿弥陀如来」の来臨を感じていただきたい。



### 音合わせの工程

令和六年十二月九日、鑄造を終えた三口の伏鉦は、最も繊細な工程である「音合わせ」の旋盤加工に移った。美しく光沢を帯びた側面を削り、音の調整を行う作業である。加工を託された金森氏は興味深い事実を語っておられた。

「西村左近宗春作の音色は神秘の

# 子ども念仏会に寄せて

太陽が照りつける夏の盛り。今年も子ども念仏の季節が来た。

今回は久しぶりに、天理市福住町の西念寺での修行体験となった。前年の奈良町とも、恒例の河内長野市山中の岩湧寺とも違う、田畑の広がる緑豊かな情景が特徴だ。特に今年は本宗の特色の一つである「大数珠練り」と、二日目に境内裏にある茶畑での早朝からの茶摘みに挑戦した。



僧侶と子どもたち一同で本堂の外陣を一周する大きな数珠を回し、一心に念仏を称える一体感が生ま

れていた。

そして茶摘みは健一自然農園の伊川健一氏を講師に招き、茶摘み体験や、お茶摘み後のお茶の淹れ方講座などを通して、日本の喫茶文化により深く触れることができた。特にお茶の淹れ方講座は、意外にも男の子たちに大きな反響があった。我々も山歩きや散策頼みの路線から、今年の夏を通して新たな知見を得たと感じる。

まだまだ子ども念仏に伸び代はあると思えた。

九教区 道願寺内 辻本 寛



## 大念佛寺 インスタグラム

フォローしてね



## ママ・パパ

雲ひとつない青空の中、お盆参りで忙しくしていたある日のこと。

朝ご飯も昼ご飯も食べる間がなく、持ち歩いてきた飲み物も切れちゃった。

喉を潤すために、ほんの少しだけ実家のお寺に立ち寄った。

玄関を上がる間もなく、お茶を飲んでみると、母がそっと炊きたてのご飯におにぎりを握ってくれた。

湯気が立ちのぼるほど熱々で、手に持つのもやっとなおにぎり。

一口、また一口と頬張るうちに、いつもより効いた塩加減が、汗をかいた体に心地よかった。

さらに食べ進めると、中から焼き鮭が顔を出した。

炊きたてのご飯の甘みと鮭の旨み、そして塩の塩梅。

その瞬間、胸の奥からこみ上げるものがあつた。

「ああ、なんと有難いことなんやろう。有難い、有難い」と涙がこぼれた。

どんな食事よりも、このおにぎりが一番のご馳走だった。

母の手のぬくもり。

お米を育ててくださった農家さん、鮭を釣ってきてくださった漁師さん、そしてそれぞれを結び合わせてくれた塩。

すべての「縁(塩)」が結ばれ、おむすびに。

魂が震えるほどのご馳走に、心の底から「ご馳走様でした」と手を合わせた。

その瞬間、日本人であることの幸せ、喜びを深く噛みしめた。

布教師会  
中山 順心



## 小径

二〇二五年は大阪では万博が開催され、多方面に大きな影響がありました。

「万博が大好きで何度も何度も通った」という声を多く聞きました。一方で、物流や交通など迷惑を被ったという声も聞きました。何事にも功罪両面あり、万博もまたどのように評価されるかは今後の関西また日本の進む未来に依ることとなるでしょう。

さてその万博が最終日まで連日満員の大盛り上がりの中で終わりますと、万博を好きだった方々からは、万博が終わったことを惜しむ「万博ロス」という言葉が聞かれ

ました。私も万博を楽しんだ方であるので、気持ちよくわかります。

十月に終わることは始めからわかっていました。しかしそれでも寂しいものは寂しいのだ。というのが、多くの万博好きの方の気持ちでしょう。諸行無常と知りはずるもの、やはり名残惜しい気持ちはある。

そんな「万博ロス」の中でおかえた二〇二六年。万博を味わい世界が広がった我々は、こんどは何に夢中になりどんな過ごし方ができるだろうか。万博の続きが我々を待ち受けている。

随学

## 話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日～金曜日(八月休)

でんわ 〇六(六九九九)九〇一〇 午後二時～五時迄

## 大念佛寺年中行事(二月～七月)について

令和七年、「令和の本堂大改修」が無事竣工し、仮本堂に遷座されたご本尊、並びに諸仏諸尊が大念佛寺本堂へと還仏なされました。

令和八年より本堂での各種法要、ご納骨、年忌法要の受付を再開いたします。どうぞご参集下さいますようお願い申し上げます。

### 年中行事ご案内

#### 修正会(本堂)

◎一月一日(木・祝) ■午前五時  
国家安泰・五穀豊穡・万民豊樂を祈願して法要が修されます。

#### 融通念仏会(瑞祥閣)

◎一月十六日(金) ■午前十二時  
ご一緒にお念仏を称えましょう。

#### 百万遍会(大数珠くり)(本堂)

■午後一時  
外陣いっぱい張りめぐらされた数珠を、お念仏の声もろともに練ります。身体堅固のお加持が受けられます。

#### 寒行

◎二月三日(火) ■午前九時三十分  
本山僧侶が平野の町を鉦を打ち鳴らしながら托鉢します。

#### 毘沙門天護摩供養

■午前十時

#### 大般若転読(本堂)

■午後二時

#### 元祖忌法要(本堂)

◎二月二十六日(木) ■午後一時

#### 河内御回在御出光(本堂)

◎三月三日(火) ■午前七時

#### 再興忌法要(本堂)

◎三月五日(木) ■午後一時

#### 写経奉納供養・筆供養(写経塚・筆塚)

◎三月三十日(火) ■午後一時三十分

#### 本堂大改修落慶法要

◎五月一日(金)

#### 慶讃万部法要

◎五月二日(土)～六日(水・祝)

#### 融通念仏会(瑞祥閣)

◎五月十六日(土) ■午前十一時

#### 百万遍会(大数珠くり)(本堂)

■午後一時

#### 東照大権現忌(蓋明殿)

◎五月二十二日(金)

#### 河内御回在御帰院(本堂)

◎五月二十九日(金) ■午後三時頃

#### 保管靈骨追善法要(榮邦殿)

◎六月二十日(土)～二十一日(日) ■午後二時

#### 中祖忌法要(本堂)

◎七月七日(火) ■午後一時

#### 鳥羽上皇忌(蓋明殿)

◎七月十八日(土)

#### 大念佛寺仏教講座(白雲閣)

●毎月第二水曜日 ■午後二時～四時三十分

#### 定例布教百曜日の時(千七百) (瑞祥閣)

●毎月二十六日 ■午後一時三十分

#### ★写経のご案内

※場所が変わりました  
毎月十五日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(一卷千円)を行っております。

#### ★納骨のご案内

午前九時三十分より午後四時までは年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。尚、納骨の際は、事前にお問い合わせ下さい。

●日程については、変更になる時もございます。

●お問い合わせ

大念佛寺宗務所

☎〇六―六七九一―〇〇二六

融通念佛宗本山 大念佛寺

**謹賀新年**

法主	吉村 暲英
管長	田中 瑞修
宗務総長	沢田 善秀
教学部長	好野 良博
庶務部長	佐々木智祥
財務部長	